

【「んぎつね授業記録⑨」】

かげをふみふみ

T 兵十と嘉助が出ていくと、またついていく。

これはわかるよな、なんでついてくの？

圭吾 またいい話がある

T またいい話がある。 はい、久美ちゃん

久美子 もっとほめてもらえるかもしれないから。

T ね。前の時間に勉強したよな。兵十が喜んでる。そのことをきいてごんはうれしかった。もっとおれのいい話をしてくれるかな、なんて思いながら後ついていくんですね。

その次にこうかいてある。ここは何もないのかな。

「兵十のかげぼうしをふみふみきました。」

兵十のかげがずっとできますね。ごんはそのかげぼうしをふみふみ。

安裕 それ、さつき圭吾君がいわたのと関係あるんちがう？。遠かったら聞こえへんやん。

C はい

T 「かげぼうしをふみふみ」、ここには何かごんの心がある？

義昌 ふんでたらな、きづかれへん。暗くて見えへん。

T ああ、影にかくれてるとのこと？（義昌 うん。）

義昌 みたい読んでた人。

安裕 ちがう、ほれもあるけど

C 口々に

T 確かに見つかったらたいへんやな。兵十はいたずらぎつねとしかおもてへんのやから、かくれんならんとすることはあるやろな。でもそれだけじゃないんちがうかって読んでる人ある？えりちゃん、今何がいたかったの？

恵理子 うれしいさかいな おこられても

T 何か、うれしいさかいふみふみ行くんやて……。どういこと？恵理ちゃんに近い人ある？

太志 あんな、自分のこともし言われるかもしれんで、もっと近くで聞きたいの。

C ぼくかてそう思う

T 近くで聞きたかった、いい話を。

安裕 遠かったらよ、あんまり聞こえへんからよ。

T はつきり聞きたかった。なるほど。はい、めぐみちゃん

勇太、おれはどれかなあって聞いてくれ。今二つ出たるやん。

めぐみ 一人ぼっちのごんだけど、兵十のすぐそばにいてもらってすごく安心。

T ほれ。何かまた違うこと言うた。今、三つ目の意見めぐみちゃんが言うたの、聞いてた？

義昌……もういっぺん言って。

もっと近くで話を聞きたかったというのが太志の意見やったな。めぐみちゃんはまた違うんやて。どういこと、もういっぺん言って。

めぐみ かげぼうしをふんできると、兵十のそばにいてるみたいで安心する。

T 誰か分かる人……めぐみちゃんを感じる人……勇太分かる？

勇太 うん？聞こえへんかった、最後らへん

T じゃ、もういっぺん言ってくれ。何か、すごいいいこと言ってるみたいだから。

めぐみ かげぼうしをふんできると、兵十の近くにいてるみたいで、安心できる。

C 何で安心するの？

T 話が聞こえるからうれしいんでなく、近くにいたことがうれしい。

何か感じられる人ない……はい、まいちゃん

麻衣子 ごんは、兵十のことが好きで、友達になりたいと思ってるから、近くにいてると、ずっと近くにいたいと思う。

T 宏

宏 兵十のかげぼうしといっしょに遊んでるみたいなん

T ほれ、義昌、聞いてたかい。おっ、勇太

勇太 あんな、兵十とかげぼうしふんでたらな、友達になったみたいでな、いっしょにいたような感じがする。

T わかる人……かげぼうしをふんできると、今、兵十といっしょにいてるみたい。

ここ、自分の言葉で言える人ない？

祐介 兵十とごんはな、兵十はな、ごんが兵十のかげぼうしを踏んできるとな、二人だけで歩いてる。何かたのしい。

T 祐介は、二人であるにいてる。何か今、自分と二人でいるような気がしてうれしい。

安裕 あ、そうか。ゆうちゃんといっしょで、二人でいると、何か、かげぼうしふんできると二人でいるみたいでな、とってもうれしいし、それから、兵十とよけい友達になれたよううれしい。

T ほう、……義昌

義昌 気持ちが変わるかもしれん。兵十のほしいものとか。

T すごい、いっばいいいのがでたの、書いといてくれる。

義昌は、影にふれてると、もつと兵十の心が感じられる……

おっ、浩二

浩二 あんな、影ふんできるとな、ずっとそのまま友達でいてな、いっしょにこのまま歩いてたい。

T もういっぺん言つて。影法師といっしょに？

浩二 ずっといっしょに歩いてたい。

T ずっとこのままいっしょに歩いてたいような気分なんやて。それもいいじゃない。

祐介 兵十の影法師に話しかけてる。いっしょにしゃべってる。

T ほう、影とふみふみしゃべってるみたい。

麻衣子 なんか兵十といっしょの体になったよううれしい。

康治 いい気になっている。

T そうやって、とってもいい気分で、兵十といっしょにいてるような気分で歩いてたんです

ね。「かげぼうしをふみふみ行きました。」
その次、どんなこと言い出したかですね。
読む

「さっきの話は、……おれは引き合わないなあ」こんなふうになっています。
ここをどこをみんな考えてみたい。

義昌 じゃその次の日によく目立つところに置いたらいいやん。
Tうん、そこ大問題やな。

嘉助はなぜ、「神様」だなんて言い出したんでしょうね。

兵十の家に朝起きると置いてある。

浩二 足音がしない。

安裕 知らないうちに置いてある。

勇太 声もしない。

T 兵十にそんなことしてやりそうな人って誰かいるの？
安裕 いいひん。

T 誰もいないね。ほうすると、朝起きたら不思議なことに置いてある。
こんなこと兵十のためにする人なんて回りに誰もいいひん。そしたらこれは、神様し

かないですよ。言い出したんだね。
ほんで、そうかなって思った

兵十はそんなばかな、神様のはずないって思った？それとも兵十も嘉助の言うとおりに
かなって思い出してきた？

C わからん

C どつとも入ってる

C 三分の一くらい。

和寿 神様とちがうかもしれないけど、神様やと思う。

T まだ、はつきりとは思えないけど、そうかもしれないなあって、ここで「うん」という。
問題は、それを聞いていたごんが、どんな気持ちになったか、だ。

「へえ、こいつはつまらないなあ。」

T 和寿、この言葉を聞いたとき、つまらないなあ、ってどうしてそんな気持ちになるの
考えある？ ちよつと自分で考え持って。

ここで、神様になったんだから、喜んでもいいやん。「俺も神様になったんかあ」って。
「おれがくりを持って行ってやるのに、そのおれにはおれいを言わないで……」

祐介 ごんは、せっかく兵十と友達になろうと思ってるのにな、兵十はごんのことなんか
ぜんぜん思ってたへんし、知らんしな、

T とにかく、祐介が言ったことを手掛かりに。もういっぺん言ってくれ

祐介 ごんはな、せっかく兵十と友達になろうと思ってるのにな、兵十はな、ごんとか、
全然思ってたへんし、そんなこと考えてないからな、なんか、……

T ごんは、今兵十と友達になりたいなああって、さっき勉強したよな。ここでは、何かいっ

しよにいるよううれしかったんでしよ。ところが、神様になったら、友達が……
C なくなつてまう。

C できなくなつてしまう。

安裕 神様に取られるような気がする。

T 神様に取られる？ どういうこと 誰か、

待てよ。ゆうすけは、こうなると、友達でなくなるような気がする

それから、神様に取られる。安裕はこんなこといつてる。神様に取られる。どうい
ことやい。

康治 ぼくはな、ごんは兵十に悪いことしてるからな、今でも悪いなと思つてな、神
様で気付いたら、よけいそっちへ行ってしまふからな、友達じゃなくなつてくる。

T 今までも兵十はごんがしてるなんて、全然知らないね。別にごんにありがどうなんて
いつてないよな、でも、神様になったら、もつと兵十がよそへ行ってしまふ。

どういふことなんでしようね。難しいけどな。

宏 そんなんじゃない。

ぼくは、嘉助をいややなあと思つてる。

T ああ、ごんはね。あんなこと言つた嘉助をね。あんなこといわんかったらいいのにつ
て。それは、そんできいやる。

問題はこや。

兵十が神様にお礼を言うようになったら、とつてもやないけど、つまらんなあ、と思
う。なんでや。

今までとどう違うんだ。

今までだつて、ごんが持つていつてるなんて知らなかつた。でも、この時はうれしかつ
た。でも、神様にお礼を言うのなら、つまらない。

祐介 ごんは、兵十に友達になりたい、とな、元氣出して欲しいと二つ気持ちががある。

そしてな、兵十がな、神様にお礼をいうんやったら、兵十が神様と友達になるみたい
なかんじでな、ごんだけ捨ててみるみたい。

C 仲間外れ

T 祐介が言うてることわかる？ 神様にお礼を言うと、ごんは捨てられてしまふような気が
する。

麻衣子 ごんは、神様がいいひんときは、別に良かったんやけど、知られへんままで、

でも、神様が入つてくると、兵十は神様のほうばかり気持ちが行くから、ごんのほ
うにはぜんぜん気持ちがいかへん。ごんはな……

T お、和寿

和寿 ごんはな、まいちゃんに似てるんやけどな、ごんと兵十はな、神様の方ばかり
お礼言つてな、ごんは仲間外れみたいにな、ほつとかれるの。

T 神様ありがどうございまして、感謝の気持ちを神様の方に向けていくと

安裕 今までは誰にも正体知られへんかつたけどよ、

T じゃ、今まではなげうれしかったの？ 今までは気づかれへんでもうれしかった。